

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1870200035
法人名	株式会社 かくだ
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」
所在地	福井県敦賀市新松島町8番30号 (電話)0770-22-6120

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月14日	評価確定日	平成21年6月1日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1200 円	

(4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川上医院・ワカバ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社かくだが運営する当該ホームは、自然が多く残る敦賀市の住宅街に立地しています。ホームは、地域の行事に招待があり参加したことをきっかけに、地域の方に「認知症」を理解してもらうことに繋がっており、「ふれあいサロン」や地域行事、溝掃除などに積極的に参加しています。地域の方々の介護相談や見学、夏休みに小学生の来訪があったり、散歩時には気軽に声を掛けてもらうなど地域に溶け込んだホームとなっています。また、職員は利用者の個別外出や「くもん学習」などに取り組み、法人の運営するデイサービスに出向くことで外出の機会も増え、機能向上や利用者同士の交流にも生かされています。毎日を明るく穏やかに暮らすために、利用者本位の生活を支援しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価については、日々の記録の仕方について検討しました。職員で話し合い日々の記録の大切さが解り利用者ひとり一人のケアに活かされています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、管理者がまとめ、記入しました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、区長、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。事前に参加者に実施内容を配布して、ホームから状況や活動報告をして、家族や利用者からホームに対しての要望や助言、参加者からの意見や提言を頂き有意義な場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪が多くあり、面会時や電話、運営推進会議の参加があり、話しやすい関係づくりに努めています。また、家族からホームへの連絡帳を作り何でも記入できるようにしました。意見や苦情があれば、職員で話し合い対応しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会に加入しています。地域で開催される「ふれあいサロン」や行事に呼びかけがあり参加しています。行事に参加したことで、「認知症」を理解してもらうことができ、散歩時には、地域の方々から声をかけてもらえるようになり、行事に参加した時には子供たちが車椅子を押してくれるなど地域に溶け込んでいます。また、職員は、地域の溝掃除に参加して、交流に努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念に地域社会との連携をモットーにと謳い、理念にそって年度ごとにホーム独自の目標を立てています。職員で話し合い、「利用者、職員ともに笑顔で生活しましょう」を合言葉に日々の支援目標としています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の経営理念はリビングに、ホーム独自の年間目標は事務所に掲げ、職員は毎月の法人や全体ミーティングで唱和しています。日々の介護の中で困難にぶつかったときなどには理念に立ち返っています。また、職員は個々に理念を意識しながら日々のケアに当たるようにしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入しています。夏祭りに招待された事で、より積極的な地域行事への参加に繋がっています。地域行事の参加によって、地域の方々の認知症理解を高めることが出来、散歩時等で出会うと気軽に声を掛けてもらい、地域の方の介護相談や個人の困りごとの相談を受ける時もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善課題については、記録を取ることの大切さを話し合い利用者のための記録と位置付け、改善できることから順次取り組んでいます。今回の自己評価票は、管理者が日々の支援のもとにまとめました。	○	外部評価の項目を全職員に知ってもらい、意義の理解につながるよう意見を聞き、話し合われまとめられることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回、利用者や家族、区長、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員が参加し開催しています。事前に実施内容を配布し、ホームからは状況報告、家族からは要望や助言、区長から地域行事などの案内があり、意見や提言など活発な意見交換の場となっています。		

敦賀ケアセンターかくた「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が地域包括支援センターの職員を兼ねており、運営推進会議の参加や市の介護相談員の受け入れをするなど市職員との連携の機会が多く、意見を交わす機会がありともにサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多くあり、面会時や電話で利用者の様子や状況を伝えています。また、実施した外泊行事や餅つき大会などの様子を写真にとり、家族の来訪時に見てもらっています。	○	面会時や電話での様子や状況を伝えておられますが、書面などの形で残るような伝え方を検討をしてみたいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には意見や要望を聞くようにしています。家族会が年に2回あり意見交換の機会になっています。また、家族からホームへの苦情や意見などを記入してもらえるように連絡帳を作り、出された意見、要望については、すぐに解決できるように職員で話し合い対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動はありますが、利用者が法人の運営するデイサービス行事に参加するなど行き来があり顔なじみになっています。退職者は少なく、馴染みのケアがなされています。管理者は、常に聞き役に回り、職員の健康やストレスに対応できるように気を配っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画やホーム独自の研修計画があり、テーマを決めミーティング時に研修をしています。認知症介護実践者研修への派遣や情報を基に個人でも参加できるようにしています。また、資格修得支援のための勉強会も開催されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として福井県グループホーム協議会に加入していますが、ホーム管理者の参加には至っていません。法人内のグループホーム間では利用者も含めて交流が行なわれています。外部研修に参加した時には、積極的に意見交換をするように努めています。	○	他のホームとのネットワーク作りや勉強会、交換研修などに参加し、交流されることで日々のケアや職員のサービスの向上にも活かすことができるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、家庭訪問をし、家族や利用者に見学に来てもらっています。入居後は、利用者との会話から生活歴や仕事の話などの会話をしながら、少しずつ馴染んでもらえるように工夫しており、家族の協力を得ながら利用者の安心に繋がっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夜、利用者が眠れない時には一緒に寄り添ったり、また若い職員が利用者にも悩み事を相談しアドバイスももらったり、一緒に生活する中で、利用者も職員も同じ目線で話せるような関係を築き、自然に喜怒哀楽を受け入れ支え合っています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者との関わりの中で観察しサインを見逃さず、思いを把握できるように努めています。口に出して希望や要望をはっきりと言われることもありますが、困難な場合には、出来るだけ会話を多く取り表情を見たり、選択できるような質問をして意向に添えるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用しながら、家族やかかりつけ医、職員の意見も取り入れ、夜勤専属の職員からの意見も参考にカンファレンスで話し合いながら、利用者ひとり一人にあった介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度、サービス担当者会議を開催し介護計画の評価、見直しを行っています。職員は、利用者9人の介護計画を頭に入れていますが、計画に基づいた記録となっていません。また、状態に変化があったときは、そのつど見直しをしています。	○	日々の介護記録を記入されていますが、介護計画と連動できるように記録の仕方を再度検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別外出に取り組んでいます。法要やお地藏様参り、カラオケ喫茶、買い物など利用者の要望に応じた支援をしています。また、地域行事の「ふれあいサロン」やホームが取り組んでいる「くもん学習」の参加に法人の運営するデイサービスに外出を兼ねて出かけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の希望を聞いています。協力医療機関からの往診が月に2回と看護師の訪問が週に1回あり、夜間や24時間連絡体制もあり、安心して医療を受けられるようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化に向けた指針があり、利用者の状況に応じて家族に説明し同意をもらっています。出来るだけ家族や利用者の希望に応じられるように協力医療機関や法人の看護師などのバックアップも得ながら職員と協力し、意向に添えるように体制を作っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務所内に適切に保管されています。言葉使いには特に注意し、常に穏やかな声掛けが出来るようにしています。また、慣れ慣れしくなったときには職員同士で注意し合っています。間違った時や不適切な言葉使いをしたときには、必ず相手に謝り「ごめんなさい」が言えるように心掛けています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、出来るだけ利用者がそろって食べれるようにしています。食事時間以外は、利用者の希望や要望に応じた生活リズムやペースに合わせた支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から味付けまでを一人でされる利用者や、おしぼりをたたみ巻いてもらうなど出来ることに携わってもらっています。また、食べたいメニューを聞きながら、自然な流れで食事介助や声掛けをして食事が楽しみになるようにしています。職員は、食事介助の利用者が多く一緒には、食べていません。	○	利用者の状態もあり一緒には食べられない現状もありますが、検食を兼ねて職員一人でも同じものを食べられないか検討してみたいかかでしょうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は、必ず入浴ができるようにしています。入浴拒否の利用者はおられず、一番風呂や熱めの湯、ぬるめの湯、介助者なしで一人で入りたい方には声掛けをしながら見守り、ひとり一人の希望に合わせた入浴を楽しんでもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備から味付け、ホームで取り組んでいる「くもん学習」を法人の他の事業所へにドライブを兼ねて出向いて行き、場所を変え、法人の他の利用者との交流が行われたり、ホーム玄関での野菜作り、好きな色のチューリップを植えるなど利用者に聞きながら楽しみや気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、車椅子の利用者も一緒に散歩に出かけています。買い物や家族も一緒にお花見に行くなど個別外出の希望や要望に沿って支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けずに自由に出かけられる環境に配慮しています。見守りを怠らず安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支援しています。居室が、2階3階にありテレビモニターやセンサーで利用者の居場所を確認することができるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、避難訓練と消火訓練、AEDの使い方などを予定しています。区長が消防署関連の仕事をされており情報を得ながら地域の方の緊急連絡体制を作成しています。	○	訓練の予定はされていますが、地域の方にも声をかけ一緒に参加してもらい訓練されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎食記入されており、水分は1500cc取れるように時間ごとに記入し、夜間の水分補給にも配慮されています。また、利用者自身で食べられるような工夫や嚥下・咀嚼状況に応じた食事を提供しています。食事量が少なくなった利用者にはカロリー計算をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる1階のリビングには、職員の写真や地域の方が作った色紙などが飾られており、大きな古時計や楽しみ事となっているカラオケ、畳コーナーが設けてあります。昼寝や一人でもゆっくりと過ごせるように工夫されていたり、玄関横にはプランターが置かれ野菜や花の栽培がおこなわれ食卓を賑わしたり部屋を飾っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとに地域で親しみ馴染んできた地名が付けられ、利用者の名前とともに居室のドアに記載されています。部屋は明るく、テレビや時計、ぬいぐるみ、写真、家族からの手紙、化粧品など入居前から使っておられたものが置かれ居心地よく過ごせるようにしています。		